

令和3年度第1回茨城県立病院運営評価委員会の開催結果

日時：令和3年9月9日（木）17：30～19：00

場所：茨城県庁11階 1104会議室

【出席委員】

城西大学教授	伊関 友伸 氏
公認会計士	清水 至 氏
(一社)茨城県医師会長	鈴木 邦彦 氏 (委員長)
群馬県立小児医療センター院長	外松 学 氏
(一社)茨城県精神科病院協会会長	高沢 彰 氏
筑波大学附属病院長	原 晃 氏
(公財)茨城県総合健診協会顧問 (県医療改革担当顧問)	山口 巖 氏
(株)日立製作所日立総合病院長	渡辺 泰徳 氏

【議事内容・意見等】

○議事内容

- ・ 令和2年度第2回茨城県立病院運営評価委員会の開催結果
- ・ 茨城県病院事業中期計画（平成30～令和5年度）の進捗状況
- ・ 令和2年度決算
- ・ 県立睡眠医療クリニックの廃止

○主な意見

- ・ 昨年度決算において、特に中央病院は新型コロナウイルス感染症関係の補助金が増えているうえ、こうした緊急時の対応がまさに自治体病院の役割なので、確保病床数等の情報は公開すべきだと思う。
- ・ 新型コロナウイルス感染症関係の補助金により増えた内部留保を有効に使うという視点も必要。戦略的にアフターコロナの医療体制を考えるとともに、医療の質の向上に努めることが望ましい。
- ・ コロナ禍において、病床は確保できても人員が足りないという急性期の大病院の課題が改めて明らかになったので、今後の地域医療構想の議論においては、ICUや充実した人員配置を備えた機能性の高い病院を地域ごとに確保するという視点が必要。
- ・ 中央病院は、県央・県北地域をカバーするがんセンターとなって、つくばや県外まで行かなくても最高の治療が受けられる環境を整備してほしい。
- ・ 睡眠医療の大多数を占める睡眠時無呼吸症候群を診療する民間の医療機関は増えてきており、民間の医療機関では診療が難しい過眠症、睡眠リズム障害などは、こころの医療センターで診療を行っている。
今後、睡眠医療クリニックが廃止されても、県内の睡眠医療は民間の医療機関とこころの医療センターで役割分担して対応していけることから、睡眠医療クリニックの廃止はやむを得ない。